

目標に合った言語活動
を組み立てる

2 言語活動の進め方

言語活動の充実が求められる背景

☆PISA調査とは

経済協力開発機構（OECD）による国際的な生徒の学習到達度調査のことです。義務教育終了段階にある15歳の生徒を対象に、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決能力の4分野にわたり主に記述式で解答を求める問題により調査が行われました。

PISA調査や全国学力・学習状況調査の結果において、我が国の子どもたちは、必要な情報を見つけ取り出すことは得意だが、思考力・判断力・表現力等に関する問題に課題があると指摘されています。

このような中、一人ひとりの生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むためには、言語活動の充実を図ることが大切です。

各教科等における言語活動の充実

国語科においては、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動を行う能力を身に付けます。

各教科等においては、国語科で身に付けた能力を基本に、それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして、言語の役割を踏まえて、言語活動を充実させる必要があります。

言語活動については、巻末の参考資料—3、参考資料—4にも詳しく説明してありますので、是非、参考にしてください。

個別支援
が必要な
生徒への
対応を
考えよう

「話す」ための「書く」支援、「書く」ための「話す」支援

自分の考えや意見を述べたり作文に書いたりすることが苦手な生徒がいます。うまく言えない生徒には、頭に浮かんだことをメモに取らせ、それを見て話させる。うまく書けない生徒には、指導者が言いたいことを聞きとり整理するなど「話す」ために「書く」活動を支援し、「書く」ためには「話す」活動の支援をすることがそれぞれ有効です。

思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実

平成20年中央教育審議会答申においては、次のような学習活動が重要であり、このような活動を各教科等において行うことが不可欠であるとしています。

①体験から感じ取ったことを表現する

(例)・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する。

②事実を正確に理解し伝達する

(例)・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。

③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例)・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動にいかす。

④情報を分析・評価し、論述する

(例)・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する。
・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめてA4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する。

⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例)・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする。

⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例)・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う。

☆言語活動の充実を図るポイント

神奈川県立総合教育センター研究成果物「小・中学校」言語活動の充実を図る学習指導事例集」には、次の3つのポイントが示されています。

- 「育てたい力」を明確に
 - 効果的な「活動領域」の選択
 - 活動に適した「学習形態」の設定
- 高等学校の事例ではありませんが、先行事例として参考になる部分があります。

☆言語活動と情報活用能力の関係

情報教育が目指している**情報活用能力を育む**ことは、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、発表、記録、要約、報告といった知識・技能を活用して行う**言語活動の基盤**となるものです。

情報活用能力についての解説は、5章—10に記載がありますので、確認しておきましょう。

教育活動全体で言語活動の充実を図った事例(中学校)より

宮城県気仙沼市立新月中学校では、授業での取組として、伝え合う活動における思考・判断・表現のプロセスを、①自己の思考を「確認」し「整理」する ②個々の思考を「共有化」し、集団で「発展」させる ③自分の思考の経緯を「記録」し、「振り返る」と分類し、指導過程に位置付けました。また、教育活動全体での取組として、自分と社会とのかかわりに目を向けさせる「交流活動」を実践し、その中で「新月サークルタイム」を設け、①新聞コラムの書き写し活動 ②自分の思いを書く ③全校縦割り班による意見交換 ④振り返りの記述 を行いました。教育活動全体で言語活動の充実を図ることにより、教科で育まれた力をさらに高める成果が得られたという報告があります。